

平成 29 年度社会福祉法人遠野市保育協会事業報告書

平成 29 年度は、当協会が設立されてから 44 年を迎え、市内全域での保育園の経営及び全小学校区において児童館・児童クラブの受託運営を行い、遠野市内における子育て支援を実践する法人として、市民の期待や負託にこたえるべき役割を果たしてきました。

また、第 2 期健全経営計画の的確な取組みや社会福祉法人の制度改革への適切な対応など協会を取り巻く様々な環境の変化に対応しつつ各種事業を取り組みましたので、次のとおり添付資料と併せて事業報告します。

1 法人運営の状況

第二種社会福祉事業である保育園 13 ヶ所及び児童館 6 ヶ所の指定管理並びに児童クラブ 5 ヶ所、地域子育て支援センター「まなざし」、病児等保育施設「わらっぺホーム」の受託運営等の事業を展開し、遠野市における子育て支援の中核的な役割を担うとともに、当協会を取り巻く環境の変化への円滑な対応を図り安定的な経営に努めました。

以下、平成 29 年度事業計画に基づいての詳細な事項を記載します。

(1) 社会福祉法改正への対応

社会福祉法など一連の見直しに伴い改正した定款、定款施行細則、経理規程等に基づき、評議員と理事、監事の選任、役員等報酬等に係る規程の整備、財務諸表等の開示システムによる所轄庁への提出、事業運営の透明性の向上に向けた情報の公表、公開など適切な対応に努めました。

また、毎会計年度、保有する財産について、事業継続に必要な財産を控除した上、再投資可能な財産（社会福祉充実残額）を算定しましたが、残額は生じませんでした。

(2) 第 2 期健全経営計画（元気プラン）の的確な推進

当協会を取り巻く環境の変化に速やかに対応するとともに、将来にわたり安定的な経営基盤の確立を図り、諸々のサービスの提供を通して地域貢献していくことを目的に、平成 28 年度に 10 ヶ年計画として策定した第 2 期健全経営計画（元気プラン）の的確な取組みに努め、後述しますが、附馬牛保育園の改築や職員の処遇改善、研修の充実、事務局体制の強化などを推進しました。

(3) 宮守 3 園の円滑な運営移行

平成 28 年 4 月 1 日の運営移管から 2 年、園児や保護者に不安を与えることが無いように配慮した運営を行いました。園児は毎日笑顔で登園し元気に園生活を送るとともに、園児の様子を見ている保護者からも苦情や不安の声はあまり聞こえませんでした。

(4) 適性な会計処理と監査機能の充実

「社会福祉法人会計基準」に則した適正な会計処理に努めることは勿論のこと、会計監査

人導入に向け、公認会計士の事前指導及び税理士による外部監査体制の強化を図りました。

特にも、内部留保の適正な額を算出するため公認会計士の指導により過去の会計基準の変更に伴う移行処理の精査を平成 29 年から 30 年に掛け行っております。

(5) 情報発信の取組み

保育園、児童館・児童クラブ、子育て支援センター、病児等保育施設の子どもの様子や活動の内容等の発信に取り組みました。

① ホームページ

平成 29 年度にホームページの改修を行い、施設ごとに季節ごとの子どもたちの様子や行事、お知らせなどを随時更新し、新しい情報を伝えるように努めました。

しかしながら、改修作業の遅れなどにより閲覧が制限される期間が長くなり、ホームページへのアクセス数は、協会全体で 62,417 回と前年比 68.3%となりました。

② オリジナル番組「とおのっ子バンザイ」

「元気・笑顔・とおのっこ」を共通テーマに各施設での児童の様子や行事などを遠野テレビと連携して番組を制作し、毎月第 4 火曜日に 3 分間の放送を行いました。

③ 機関紙「かたぐるま」の発行

事業報告・決算、職員募集、各施設の活動状況、子育てワンポイントなどを掲載し、年 2 回（8 月・11 月）全戸配布しました。

(6) 職員体制等

① 職員の配置と処遇改善

今年度当初の職員（嘱託職員・正規職員・臨時職員・パート職員等）は 289 名で、業務施設別には次のとおり配置しました。退職職員は 5 名（保育士 5 名）でありましたが、保育士 7 名（うち再任用職員 1 名を含む）、指導員 2 名を採用し、正規職員の数は 93 名（前年比 4 名増）となりました。

	嘱託職員	正規職員	臨時職員		合計
			基準職員	パート職員等	
保育園		82	68	67	217
児童館等	5	6	17	25	53
子育て支援		(兼 1)	1	2	3
病児等保育		1		9	10
本部事務局	1	4		1	6
合計	6	93	86	104	289

また、安定した人材の確保・定着を図るため、給与等の見直し及び一時金の支給による処遇の改善（臨時職員含む）を実施しました。

② 人材の育成

職員の人材育成を図るため、キャリアパス制度と連動した研修システムを構築し、新採用職員研修や新人や若手職員を対象にしたOJT、職員並びに保育園、児童館の課題等を踏まえた園・館内研修を行うとともに、各園の担任等を中心としたグループ研修を計画的に実施しました。更には、園長、主任、保育士、栄養士、遊びの指導員など職位・職責に対応した研修やセミナーへの参加を促し人材育成に努めました。

(7) 安全管理

施設内外で想定される事故等のリスクを洗い出し、分析し、再発防止や類似事故の発生予防に努めるとともに、遊具を含めた施設内外の安全点検を行い、災害や事故の発生に備え、定期的な避難訓練等も実施しました。また、感染症などの発生予防、発生した際の拡大防止を図るためのマニュアルの再確認や嘱託医、保健所等との連携の強化に努めました。

(8) 会議等の開催

① 評議員会（評議員9名）の開催

法人運営の重要事項等について決議していただくため、定時評議員会1回及び臨時評議員会2回の計3回開催しました。

（詳細は別紙参照）

② 理事会（理事7名・監事2名）の開催

法人の業務施行に関する重要事項等について決定を行うため、年度7回開催しました。

（詳細は別紙参照）

③ 役員会の開催

役員の実行体制の強化及び情報の共有を図るため、年度4回開催しました。

④ 「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」の開催

苦情解決第三者委員2名・全施設長等で組織される「福祉サービスに関する運営適正化検討会議」を開催し、保育園・児童館等法人施設に寄せられた苦情、起こった事故等について事例検証を行い、意識等の共有化と再発防止に資するため2回開催しました。

（詳細は別紙参照）

⑤ 契約等予定者選定委員会の開催

工事及び物品購入等業者選定の適正を図るため、年度6回開催しました。

（詳細は別紙参照）

⑥ 「定例園長会議」・「定例館長会議」の開催

保育園・児童館等法人施設間の連絡調整や相互連携を図るため、園長・館長会議をそれぞれ、毎月開催しました。なお、合同のものは、施設長会議を開催するなど対応しました。

(9) 保育園定員の見直し

充実した保育実施に向け、地域偏在の現状・傾向を反映した保育園定員とする見直しを行いました。（平成30年4月適用）

保育園定員の見直し状況

(全体定員 885 人 ⇒ 855 人)

保育園名	見直しの視点	変更前の定員	変更後の定員	増 減
岩滝保育園	減員する	40	30	△ 10
認定こども園 宮守保育園	減員する	95	75	△ 20
	(内訳：幼稚園分)	(15)	(15)	—

2 保育園の経営

「児童ファースト」を全職員の合言葉として、全保育園において施設の立地環境等を生かした創意と工夫ある保育に努めました。また、保育課程を編成することは勿論ではありますが、卒園児 152 人の子どもの育ちの記録（保育要録）を作成、各入学予定小学校に送付し、地域で育つ子ども達の連続性の確保に努めました。

保育士等の配置では、保育の質向上をねらい、保育士、看護師、栄養士など資格を有する職員の充実配置に努めました。

運営においては、宮守3園のうち協定に基づいた遠野市からの運営費助成を受けたのは宮守保育園、鱒沢保育園で、達曽部保育園は当初計上していた運営費助成を返還するとともに、10カ所（岩滝、宮守、鱒沢保育園以外）の保育園においては積立資産（人件費又は施設整備）への積立ができるなど公定価格の単価改定などの要因により安定した経営が図られ、概ね順調に推移しました。

なお、運営費収入に対する人件費率は、一人ひとりに寄り添った保育の充実を図るために、保育士や保育補助者を増やしたこと、及び保育士等処遇改善として給与等の改定や一時金として支給したことから前年比 4.2 ポイント上昇しました。

運営費・人件費

(単位：円、%)

	H29	H28	H27	H26
運 営 費 収 入	896,710,850	931,856,420	774,564,360	749,938,066
人 件 費 支 出	722,087,755	708,730,551	615,463,000	594,182,986
人 件 費 率	80.3%	76.1%	79.5%	79.2%

※H26, 27 は宮守3園を含まず

保育園の職員配置においては、年度途中での有資格者の確保ができにくい状況を踏まえ、年度当初から職員配置基準を意識した有資格者の確保に努め、途中入所増にも対応できる体制づくりに努めました。

また、専門職員相互の機能性を高めるとともに、保育業務をチームとして遂行するため、主任・副主任保育士が職員に対する指導・相談など現場での問題解決に向け職員間のパイプ役として取り組みました。

職員配置状況

単位：人

	園長等	基準職員等					基準外職員					合計
		保育士	看護師	栄養士	調理員	計	保育士	保育補助	調理補助	看護師	計	
①当初配置	14	110	3	9	14	136	23	31	10	3	67	217
うち正規職員	14	56	2	9	1	82	—	—	—	—	—	82
②年度末配置	14	110	3	9	14	136	25	37	11	3	72	225
②—①	0	0	0	0	0	0	2	6	1	0	9	9

(1) 入所児童

入所児童数は、781名（当初入所児童数736名でスタート）と総定員（885名）比88.3%と下回りました。これは、少子化に伴う児童の減少が原因と考えられます。

入所児童数

(単位：人)

	H29	定員比(885名)	H28	H27	H26
当初入所児童数	736	83.2	762	671	724
当初入所児童見込数	733	82.8	749	669	755
入所実績	781	88.3	815	719	758

※H26.27は宮守3園を含まず

(2) 保育の質向上への取り組み

「改定予定の保育所保育指針」の方向性を踏まえた保育を実践し、入所している子どもたちが安定した生活を送り、発達の過程に応じ充実した活動ができるよう職員の資質・専門性の向上を図り、保育の質を向上に努めました。

① 質の高い保育サービスの提供

質の高い保育を展開するためには、保育園において子どもに関わるあらゆる職種の職員一人ひとりが、その資質を向上させることが大切でありますので、グループ研修（園長、主任、未満児、3歳以上児、栄養士など11グループ）を開催するとともに、県内外の各種専門研修に積極的に参加させ、職員の自己研鑽意識の醸成を図るなど資質の向上に取り組みました。

また、各保育園で保育計画の展開状況や保育士等の自己評価を踏まえ、園としての保育内容に対する自己評価を実施するとともに、評価結果を分析し、園として取り組むべき課題を明確にして改善を進め質の高い保育サービスの提供に努めました。

② 多様化する保育ニーズへの対応

各保育園で提供している特別保育事業（地域活動・延長保育・一時保育・休日保育・障害児保育）の充実を図り、多様化する保育及び地域のニーズに対応しました。

③ 子育て支援・相談体制の充実

保護者の気持ちを受け止め、求めている子育ての問題や課題に対して、保育士としての専門性を活かした支援や相談に努めました。また、入所児童にとどまらず地域に関か

れた子育て支援に関する拠点としての役割を担うべく取り組みました。

④ 食育の充実

食育を保育内容の一環として位置付け、各園において、安全安心、楽しい食と健康を守る自園調理の提供に取り組むとともに、保護者への情報提供にも努めました。また、食物アレルギーの対応には十分注意をはらい 12 保育園において 28 人分の除去食も実施しました。（詳細は別紙参照）

⑤ 公開保育の実施

各保育園での実践事例から学び合い、刺激を受け、自身の保育や課題を見つめ直すことを目的に、自主研修組織双葉会と連携し公開保育を次のとおり実施しました。

「公開保育」実施状況

公開施設	公開月日	テーマ	職員参加人数
岩滝保育園	平成 29 年 9 月 13 日	自分の思いを伝えよう 相手の思いを感じよう	31 人
土淵保育園	平成 29 年 10 月 4 日	人と関わる力を育てる保育者の 役割	26 人
青笹保育園	平成 29 年 10 月 11 日	様々な遊びを通して友達と 思いを伝えあい、イメージを共有し ながら楽しんでいるか	35 人
神明保育園	平成 29 年 10 月 27 日	友達の姿に気づき、励ましたり共 感する言葉がけをする子どもの 姿・保育者の関わり	32 人

(3) 特別保育の充実と「病児等保育」の受託

病児等への適切な看護及び保育を通して、保護者への育児相談及び就労支援の提供を行いました。特に、岩手県立遠野病院小児科医や市子育て総合支援課等と情報を共有し適切な対応を行うとともに、0～2歳児の利用時には、情緒の安定を図るため可能な限り 1 対 1 の保育看護に努めました。

また、保育園看護師との情報交換を毎月開催し、保育園での疾患対応や保健衛生に関する情報の共有を図るとともに、感染症については、独自に作成した「遠野市保育協会登園基準マニュアル」に基づき、予防等の対応を徹底しました。

利用傾向については、発熱を伴う風邪と胃腸炎が年間を通して続き、繰り返し利用する子どもが多く見られました。また、12 月以降にはインフルエンザ A 型と B 型の同時期の流行により利用者が増え、利用実績においても利用延べ人数は、前年より 78 人増加しました。

「病児等保育」利用実績

単位：日、人

	H29	H28	H27	H26	H25
開 室 日 数	242 日	244 日	241 日	242 日	241 日
利用延べ人数	631 人	553 人	591 人	527 人	559 人
1 日 平 均	2.60 人	2.26 人	2.45 人	2.17 人	2.3 人

(4) 園舎等施設整備

施設整備計画に基づき平成 28 年・29 年の 2 カ年事業として改築整備を進めてきました。附馬牛保育園が平成 30 年 2 月に完成し、4 月の新年度から新しい園舎での保育が行われております。また、その他の園につきましても、運営費の中で必要な施設補修等を実施し、施設の安全管理に努めました。

3 児童館・児童クラブの運営

遠野市から 6 児童館を指定管理、5 児童クラブを受託しており、少子化や核家族化、地域社会の希薄化など就学後の子ども達を取り巻く環境が大きく変化している中で、市内 11 小学校区全ての放課後学童の居場所として、遊び（体験・交流・学び等）を通して健全育成を図りました。

学校行事等の影響により利用状況は増減いたしますが、現在のように子ども達を取り巻く環境が大きく変化している状況下、放課後の居場所としての役割は益々重要となっています。

児童館・児童クラブの利用登録児童数（実数）

施設名	H29		H28		H27		
	実績 (人)	前年比 (%)	実績 (人)	前年比 (%)	実績 (人)	前年比 (%)	
小 学 生	利用登録数	1,009	99.5	1,015	100.8	1,007	96.9
	年間延べ利用人数	125,325	98.7	127,010	96.3	131,845	102.7
	1日平均利用人数	43.8	98.7	44.4	87.6	50.7	106.7
全 体	利用人数	131,500	97.7	134,571	96.1	139,988	102.8
	1日平均利用人数	46.0	97.7	47.1	87.5	53.8	113.0
土 曜 日	利用児童数	623	86.7	727	100.8	721	120.6
	開館日数	71	97.3	73	100.0	73	107.4
	1日平均利用人数	8.8	88.0	10.0	101.0	9.9	113.8
年間開館日数等 (土曜日を除く)		2,860		2,860		2,860	

※全体＝小学生、幼児、中学生、高校生、一般の利用者の合計

(1) 職員配置

館長は複数館担当として 6 児童館・5 児童クラブに 5 名を委嘱し対応しました。

職員体制は、各館 2 名を基本として主任 1 名と副主任 1 名、遊びの指導員を配置するとともに、利用状況に応じて柔軟に増員対応し活動の充実を図りました。

また、要支援児童の利用対応についても、その児童の状況により増員配置しました。

職員配置状況

単位：名

館長	遊びの指導員				計
	主任	副主任	指導員		
			児童館	児童クラブ	
5	1	1	21	11	39

(2) 職員の資質の向上及び指導内容の充実

児童館・児童クラブは、年齢や発達状況が異なる子ども達と一緒に過ごす場所であるため、職員には適切に関わる専門性が求められることから内部研修の充実を図るとともに、「児童厚生2級指導員研修」などに積極的に参加させ資質の向上を図りました。

また、遊びによる心身の健康維持及び知的・社会的能力を高める様々な活動に自発的に取り組めるような事業やプログラムを工夫するなど内容の充実に努めました。

更には、全児童館・児童クラブや中学校区ごとに交流する場として、合同事業を積極的に実施しました。

(活動状況の詳細は、別掲 児童館(2)合同事業を参照。)

(3) 要支援児童への対応

近年、増加傾向にある要支援児童の対応については、児童の理解と保護者を含めた適切な対応や支援が必要であるので、専門家を独自に招聘して講義及びケース検討研修を実施し、対応力の向上を図り、支援が必要な児童や保護者に寄り添った支援を行いました。また、小学校との連携はもとより、保護者や子育て支援課、健康福祉の里、花巻清風支援学校などの専門機関、地域と連携して対応しました。

要支援児童数（病名が有る児童）

H29	H28	H27	H26	H25
32人	37人	38人	39人	25人

(4) 子育て（サークル活動）支援

就学児童が利用しない午前中の時間帯を中心として、在宅の親子に児童館・児童クラブ施設を活動場所に開放しながら、仲間意識の高まりや自主的に活動が行えるよう支援を行いました。また、子育てに関わる悩みや相談対応を各保育園と連携して行いました。

各地域子育てサークルの状況

(単位：世帯)

子育てサークル名	関与館名	登録世帯数			活動内容
		H29	H28	H27	
ひよこクラブ	遠野児童館	27	21	23	※別掲 子育て支援センター まなざし活動の(3)各 サークルの活動状況 を参照のこと
すくすくクラブ	綾織児童館	8	10	10	
子育ておしゃべり会	白岩児童館	17	17	18	
つくしんぼクラブ	附馬牛児童クラブ	1	1	5	
にこにこクラブ	小友児童クラブ	3	1	2	
ひまわりクラブ	土淵児童クラブ	6	12	13	
たけのこクラブ	青笹児童館	16	13	21	
かみごうっこクラブ	上郷児童館	11	12	12	
宮守カンガルー教室	宮守児童館	11	10	6	
計		100	97	110	

※ 他に遠野聖光のサークルあり

4 地域子育て支援センターの運営

子育て支援センター「まなざし」は、これから子どもを持つ母親、子育て中の母親や父親の交流の場になっており、気軽に子育ての情報交換や、親子が触れ合って遊ぶ場、更にはリフレッシュの場として利用されています。

また、各子育てサークルや各関係機関（子育て総合支援課、福祉の里、助産院）との連携を深め、支援を必要とする親子や子どもの育ちにおける様々な問題などの早期発見と相談、支援に努めました。

職員等事業推進体制

白岩保育園上席主任保育士 兼地域子育て支援センター所長	保育士
1名	3名

地域子育て支援推進担当者	子育てサークル
各保育園主任保育士等	児童館等職員
13名	11名

(1) 「まなざし」の活動充実

子育て支援では、「まなざし」が核となって保育園や児童館、主任児童委員など地域との連携により、利用する子育て親子の悩みや母親同士のつながりから育児の励みにもなっています。

各地区の子育てサークル活動支援、リフレッシュ交流の場としての合同事業などニーズに合った企画の実施など、子育て支援ボランティア「クレヨン」と連携し、取り組みました。

利用者も年間利用人数は、3,027人に上り子育て支援の一翼を担っています。

(2) 支援団体等との連携

地区の主任児童委員と地域子育て支援センター・地域子育て支援推進担当者（各園主任保育士）・児童館等職員が連携を取り、赤ちゃん訪問活動等を通して実態把握に努めるとともに、子育てに関する各種サービスのPRなどを行い利用促進に努めました。

また、子育て支援ボランティア「クレヨン」や協会退職職員（OB）組織「陽だまりの会」と連携し、専門性・豊かな経験を活かし、多様な子育て支援のニーズに対応した活動を展開しました。